

第14回 桃太郎カップ水球 【戦評】

会場：倉敷市屋内水泳センター

【2021/12/24】

女子準々決勝

岡山県選抜

9

1	—	5
1	—	3
4	—	1
3	—	2
PSO		

11 春野水球クラブ

審判： 荻野 浩明
宇田川 佑里子

岡山県選抜	18	SH数	24	春野水球クラブ
	3	速攻数	2	
	5	ST・SB	10	
	11	SH・P誘発アシスト	7	
	42%	GK阻止率	18%	
	2	EX反則数	2	

ST・SB：ボール奪取・SH阻止

【試合の流れ】

本日の1回戦をPSOで勝ち上がってきて、勢いが出てきている岡山と、ローリー兄妹が活躍している高知との一戦は、岡山側がローリー妹をどこまで封ずるかで勝負の行方が見えてくる。

1P

戦前の予想通り、高知のローリー妹の動きに岡山側はなかなか対応できず、攻守にわたってプールを広く泳ぐ彼女にやや翻弄された形で高知が有利な展開に持ち込んだ。

ローリー妹がゴール前へのドライブ攻撃だけでなく、その次からも岡本などが飛び込んでくる高知の攻撃には岡山ディフェンスは完全に後手に回り、岡山1-5高知と点差が開いた第1ピリオドであった。

2P

このピリオドも同様の展開で、ローリー妹がディフェンスから一気に攻め上がり、次々に加点していった。岡山側はなかなか突破口を見いだせず、単発的な展開でこのピリオド1点を返すのがやっとであった。

前半は岡山2-8と高知ははかなり有利な展開で折り返すことができた。

3P

しかし、第3ピリオドは開始早々、センターボール奪取からの連続攻撃でセンター位置で柁が見事に決めて岡山がリズムを取り戻した。その後も、柁や身体能力の高い丸山らのコンビネーションが機能し始め、同時にディフェンス面でもGK末澤の好セーブなどからチャンスをつかみ、3連続得点を含む4点を高知からもぎ取り、このピリオドの失点を1点に抑えたことから、岡山6-9高知と射程距離に入れて最終ピリオドを迎えた。

4P

このピリオド、高知の攻撃を全員でよく守ってオーバータイムを誘い、そこをタイミングよく泳ぎだした丸山が決めてとうとう2点差に岡山が迫った。この勢いを止めたのはやはりローリー妹。失点直後に自身で前に泳ぎ込んで主導権を渡さず、このピリオド2点をマークし、岡山の反撃を振り切った展開となった。

敗れたとしてもここ数回の岡山の状況とは見違える出来で、開催県としての責務は果たしたものがある。この世代がここで得た自信を基盤にしてさらなる向上に期待したい。

また、ベスト4に進出した高知は選手層は薄いものの、皆がよく水球を理解して動いているだけに、準決勝での戦いが期待できるであろう。

【プレー分析から】

初日に2試合戦った岡山だが、小柄な割にシュートコースへの反応がいいGK末澤の好セーブが光っていた。そのセーブを基盤にしたチャンスがいくつもあったことから、岡山の成長の軸となった。また身体能力が高く、球技センスや泳ぎの面で今後の成長が楽しみな柁・丸山などを中心により実戦を重ねると面白い存在になるだろう。

対する高知はやはり水球センスが抜けているローリー妹に注目が集まりがちだが、パスミスなどの単純なミスがほとんどなく、自滅しにくいチームの特徴が発揮されていた。ただ、ローリー妹が前線にまで攻め上がってシュートを防がれると、ディフェンス面が手薄になりがちなので、このあたりの攻守の切り替えとGKの役割が今後の課題となるだろう。